

第2節 市民フォーラムの概要

1 開催目的

「長寿安心プラン 2012」の見直しに当たり、本市における介護保険制度の現状と基本構想を踏まえた事業計画の見直しに係る方向性を説明し、市民との意見交換で伺った意見を次期長寿安心プランの策定に生かしていくため、市民フォーラムを行う。

2 開催内容

(1) 第1回フォーラム

ア 開催日等

開催日	場 所	参加者数	担当委員
平成26年 7月6日(日)	消防局 防災センター	85人	石田道彦 入川尚子 片田圭一

(時間は午後2時から午後4時30分まで)

イ 内 容

- ・開会、趣旨説明
- ・介護保険制度と地域包括ケアシステムの構築について
- ・金沢市地域包括ケアシステム推進基本構想の概要について
- ・フォーラム参加者との意見交換
- ・講演「在宅医療でできること」
- ・閉会

(2) 第2回フォーラム

ア 開催日等

開催日	場 所	参加者数	担当委員
平成26年 10月7日(火)	大徳公民館	15人	石田道彦 入川尚子
10月8日(水)	森本市民センター	15人	曾我千春 片田圭一
10月9日(木)	城南公民館	38人	石原俊彦 入川尚子
10月10日(金)	諸江公民館	22人	石田道彦 菅村美知子

10月14日(火)	松ヶ枝福祉館	18人	曾我千春 片田圭一
10月15日(水)	額市民センター	16人	曾我千春 宅本門示
10月16日(木)	西部市民憩いの家	15人	石田道彦 片田圭一
10月17日(金)	崎浦公民館	21人	石原俊彦 福島由美
計		160人	—

(時間は午後7時から午後8時まで)

イ 内容

- ・開会、趣旨説明
- ・介護保険制度の現状と金沢市地域包括ケアシステム推進基本構想の概要について
- ・介護保険の制度改正の概要について
- ・フォーラム参加者との意見交換
- ・閉会

(3) 第3回フォーラム

ア 開催日等

開催日	場 所	参加者数	担当委員
平成27年 1月17日(土)	消防局 防災センター	103人	曾我千春 片田圭一 石原俊彦 入川尚子

(時間は午後2時から午後4時まで)

イ 内容

- ・開会、趣旨説明
- ・介護保険制度の現状について
- ・長寿安心プラン2012の検証による課題と市民フォーラムにおける意見について
- ・長寿安心プラン2015の骨子案について
- ・フォーラム参加者との意見交換
- ・閉会

3 会場及びアンケートにおける主な意見

1 第1回フォーラム

(1) 会場での意見

- (ア) 説明を聞いて、これからは地域に根ざした主体的な活動を促すために、地域包括19箇所ごとに拠点を作り、モデル的にやるなど、リーダーが生まれてくるような取組を行っていく必要があるのではないか。
- (イ) 行政が施策を作るという行政主導の流れが強いので、地域の力をもっと借りなければ、絵に描いた餅になる。みんなが対等な立場で検討ができる環境を作って欲しい。
- (ウ) ヘルパーに代わる互助として具体的にどのような方が期待されているのか。介護予防訪問介護・通所介護が市の事業になることは、ヘルパーとしては非常に不安である。
- (エ) 地域サロンで集いを開いていかないといけないというのは大いに結構であるが、基本的な介護については公的サービスの充実が必要である。
- (オ) 金沢市は二次予防事業をしていてそれは良いことだと思うが、3ヶ月が終わったらその後の受け皿がない。そのため、次期プランでは受け皿を作ってほしい。

等

(2) アンケートでの意見

ア 市民フォーラムについての意見・感想 (59件)

- (ア) 初めて地域の人言葉を聞く機会を得た。現在の制度と不安、不満を実感した。
- (イ) 意見交換では、色々な立場の方の意見を聞くことができよかった。特に、地域での互助に関しては、もうすでに民生委員やまちぐるみなどが活動しているので、それほど簡単なものでない。
- (ウ) とてもよい会議であった。家族も施設のお世話になっており、とても参考になった。
- (エ) 国から示されている方針がそのまま説明された感じである。金沢市として十分に機能させていくことができるシステムとして考えていることだと思うが、地域の実情からいってかなり無理があると思う。
- (オ) 法改正後の介護がどうなっていくのか皆不安である。もう少し具体的な施策を細かな地域でのフォーラムで伝えてほしい。 等

イ 地域で高齢者の暮らしを支えるために求められるものについての意見 (56件)

- (ア) 定年後男性などの元気な高齢者の地域貢献

- (イ) 現在1人暮らしで、身近に話しができる人がいると安心できる。
- (ロ) 高齢者の方にはとにかくすぐ相談できる場所を知ってもらうことが大切。そのためには常日頃からの近隣との交流が重要。しかし一番難しいと感じている。
- (ハ) もっと総合病院担当医にアピールしてほしい。
- (ニ) 地域で要支援レベルの方が自立して生活する時に、現在のサービスの中で少し工夫すれば自立できるのではないかと日頃考えていることを提案する。①ごみ捨て→個別収集、②買物や入浴→地域循環送迎便や宅配 在宅で受けられる生活支援サービスの拡大を
- (ホ) 買物等の街に出かけられる交通手段
- (ヘ) 団塊の世代がまわりに迷惑をかけずに入所せず、ボランティアに励んだり、自己の健康管理に気をつけて世の中のお金の無駄遣いをしないこと、その下の世代への負担をかけないことが不可欠
- (ヘ) 今まで社会を作ってきた民生委員の世代でさえ、地域支援をあきらめているように感じる。もっと市民フォーラム等で勉強して、地域の方の意識を高めてほしい。
- (コ) 地域住民の力、ご近所の見守り等はもちろん大切であるが、公的な制度が十分に整っていることが基本である。包括職員を増やすこと。地域のつながりが希薄にならざるを得ない社会構造の転換
- (ク) まず何かあった時にどのように動けばよいのかという情報を市民に十分に伝えることが何より大切である。
- (ケ) 既存のサービスの充実と、地域間のネットワークに行政は力を注いでほしい。市民を大切に作る制度ならば大歓迎である。

ウ 在宅医療に関する講演についての感想 (54件)

- (ア) 在宅医療についてわかりやすく説明していただき勉強になった。家族方の体験もとても参考になった。
- (イ) 訪問診療と往診の違いがとてもよくわかった。重大な病気になったら、キュアせずケアでよいと思った。「死に方」というのは、「最期の生き方」という言葉は印象に残った。
- (ロ) 在宅でもかなり広く治療ができることが理解できた。延命治療をしないと言っても病気の内容によって対応が異なることも勉強できた。
- (ハ) これまでの施設入所ありきの医療からの転換の大切さを改めて認識できた。医療機関の意識改革も不可欠ではないか。
- (ニ) ご家族の方が言っていた、市民への周知は大切であると思った。 等

エ これからの介護保険に関する意見・要望（40件）

- (ア) 地域包括や介護、福祉に関わる専門職の役割は、そのような方のために地域の方と関わってもらえるようにするパイプ役ということも仕事である。そのような意識を持てる専門職に対する研修を行ってほしい。
- (イ) 認知症がある人は、専門医に紹介するような体制が必要ではないか。
- (ウ) 地域ケア会議開催の取組を拡充して行ってほしい。
- (エ) 担い手不足が深刻であり、その点も今後のプランに反映していただきたい。
- (オ) 介護保険事業者が増え、利用者側の選択の幅が広がったのは良いが、職員の人手不足を招いている。
- (カ) 地域包括支援センターが核になる。それに対し、市はどのような内容の強化、その対策を行うのか。
- (キ) 「コミュニティの互助の力」は、町会単位のボランティアを育てて、立ち上げればどうか。
- (ク) どのような事業者がどういったサービスを提供するのかをわかりやすく市民へ情報提供する必要があると思う。
- (ケ) 誰に相談してよいのか悩んでしまう。その窓口や相談相手について、わかりやすい情報を本人はもちろん家族へ知らせてほしい。
- (コ) まだ介護に関係がない若い人への周知が必要である。 等

2 第2回フォーラム（市内8箇所）

(1) 会場での意見

- (ア) 要支援の利用者がいるが、今後も現在と同じデイサービスを受けられるのか、介護保険から外されたらどうなるのかとても心配している。
- (イ) 遠方施設のデイサービス利用の話があったが、夕方の交差点はデイサービスの車でごった返している。自由に事業者を選べる良さはある反面、遠くからでも一人だけ車に乗せて通うなど、無駄があると思う。保険料高くなる要因が色々あるのではないか。
- (ウ) 介護サービスは、原則として、一番近くのものを利用するべきである。
- (エ) 高齢化に伴い、認知症の方が増えてきている。元気な時から地域と交流して、近所の方と関係ができると良いと思う。介護保険サービスには、サービスを使うことで、地域との関係が断ち切られるという弱点もあると思う。
- (オ) 災害があったときには、近所の力が必要である。このことは、高齢者の家族の方に教えるべき。
- (カ) 高齢者2人を自宅で看取った。最近施設がたくさんあり、介護が必要になった

らすぐに施設に入るとい流れが多いと思う。資料を見て、自分と同じように多くの方が自宅で介護を受けながら過ごすことを望んでいることが分かった。2025年を見据えて、制度を見直す案がいろいろ出されており、それらはとても興味深く、素晴らしいと思う。

- (4) 遠方に暮らす子供からすると、施設に入居することが一番安心であり、地域で暮らすことについて、家族と本人との間に認識のずれがあり、本当に良いのか分からない。
- (5) これからの高齢化社会では、高齢者、障害者、子供など、全てを含めた地域包括ケアシステムの構築が必要である。
- (6) 昔は家を中心に生活していたのでそれを取り戻して欲しいと感じた。施策として明るい印象を受けた。
- (7) 「地域包括ケアシステム」という言葉は難しいと思う。色々な人たちの力を集めるということが一つの目的としてあることから、何を狙っているかがわかるように、わかりやすい言葉で表現すべきである。
- (8) 地域包括支援センターについては、一般の人はまだ知らない人が多く、周知されていないと思う。また、どのような時に相談すればよいのかもわからないと感じた。
- (9) 介護等に関する様々なパンフレットが作成されているので、適切な段階で適切な人に渡るようにして欲しい。
- (10) 説明の中で金沢市の地域の強みとして、古くから培われてきたコミュニティとあったが、コミュニティにも地域差がある。結びつきがない地域もあるので地域差に対応できる指針であつたらよいと思う。
- (11) 高齢者ばかりの町会もあり、町会として機能していないものが出てきている現状がある。その中で、どうやって地域の力を育ていけるのか迷いながらやっている。等

(2) アンケートでの意見

ア 市民フォーラムについての意見・感想 (91 件)

- (A) フォーラムもよいが、テレビでの放送もあっていいのではないかな。
- (B) 理解を深める事ができた。気軽に意見交換できる機会を今後も続けて欲しい。
- (C) これからの金沢を目指す意見での話としては実に良い事だと思うが、現実としては負担額の減少をお願いしたいと思う。
- (D) 総合事業の実施について、現在サービスを受けている方の不安は多く、法律で決まっても現在のサービスを自治体で維持して欲しい。
- (E) 地域で集えるようにとの意見が多く出たのでその方向で進めて欲しい。 等

イ 地域で高齢者の暮らしを支えるために求められるものについての意見（97件）

- (ア) 住民一人ひとりが自分らしく生活続けたいという意思を持って主体的に予防、維持、改善に取り組むという個の意思と自分の持っている力をみんなのために役立て支え合おうという地域の力、そしてそれを支えていく行政や関係機関の連携だと思う。
- (イ) 生活支援コーディネーターの積極的活用（登用を含む）と社会資源の活用（町会、地区社協、善隣館、婦人会、老人会など）
- (ウ) 自宅での家族に対する支援体制を考えてみたらどうか。
- (エ) 認知症にならないためのケア（サービス、運動など）をもっと増やして欲しい。
- (オ) 元気な時から近隣の方とかかわりができるような仕掛け作りが必要だと思う。
- (カ) 高齢者のケアはもちろんだが、介護している家族のケアも大切である。
- (キ) 認知デイサービスの職員だが、地域の方は認知症が知れることを恐れ利用しない方が多い。市民への認知症理解の機会が求められる。
- (ク) 認知症、一人暮らし、高齢者世帯の見守り、町会、民生委員、推進委員等全てで見守りの必要があるのではないか。
- (ケ) 地域の情報、認知症予防に力を入れることが大事
- (コ) 行政・医療・福祉・保健・教育機関だけの問題ではなく、患者・家族・地域住民もできることを一緒に考えていく必要性を感じている。
- (サ) みんなの助け合いの心。自分たちで見守っていくという地域の覚悟
- (ソ) 高齢者本人は住み慣れた地域で暮らしたいと望んでも、実際は家族の意向ですぐに施設へととなっている。これからは市民1人1人が自分の老後を早いうちに勉強する必要があると考える。
- (ス) 近隣に「お願い」と頼める力。病気、障害を受け入れることができる地域
- (セ) 近隣の住民同士の日頃の認識度が大切である。
- (シ) 「向こう三軒両隣」を守りつつあれば、日々の変化が見受けられ、やはり日常のコミュニケーションが必要であることの重要さを感じた。
- (タ) 地域コミュニティの再生を急ぐべき。同じ金沢市内でありながら町会等に違いがある。
- (チ) ボランティアに責任を持って「ケアプランの一部」を担ってもらうのは難しいと思う。仕組みを理解して「自立支援」の観点で動いてもらうのは難しい。ボランティアは自由意志で動く人なので、報酬なくボランティアをできる経済力のある人が今時いるのか。
- (ツ) 将来介護を受けるような人が前もっていろいろ勉強する機会をたくさん広めて、考えられないのか。 等

ウ これからの介護保険に関する意見・要望（60件）

- (ア) 身寄りのない方が入所、入居する施設がなく、結局は独居や孤独死の原因になっていると思う。
- (イ) 色々なサービス、相談窓口があるが、高齢者やその世話をする人達にもっと分かりやすく内容や活動をアピールして欲しい。周りの人で、誰に相談したら良いか分からないお年寄りが結構いる。
- (ウ) 予防給付の地域支援事業の「多様な担い手による多様なサービス」の担い手がいるのか否か、どのような人たちが担っていけるのか心配である。
- (エ) 介護サービス事業者の適正化。通所介護事業所の数が多く、また、過剰サービスが利用者の自立支援を妨げている。
- (オ) 利用者の方からは、ボランティアの方が家の中へ出入りするの不安だとの声が多々聞かれる。
- (カ) 家族に介護力がないのに「家族がやって当然」という前提で「在宅」と言われるのは非現実的である。
- (キ) 要支援の方の受入れを今後ボランティア等に頼ることが多くなると思うが、支援として機能するかという点に不安を感じる。
- (ク) 少子高齢化の日本、老人は若い人々に甘えていないでなるべく自立し介護保険料を納めているから使わなければ損だという考えを捨て、社会のために貢献し、元気に生き抜くほうが幸福であると自負すべき。 等

3 第3回フォーラム

(1) 会場での意見

- (ア) 地域包括支援センターについても出張所などを設置し、小学校区単位の管轄にしてはどうか。例えばどこかのセンターでモデル的に出張所を設置するというような試みをして欲しい。
- (イ) 現在金沢市には 1,300 人余りの特養待機者がいる。次期計画では待機者に見合った特養の建設をしていただきたい。自己選択と権利性から言っても、いくらなんでも入所できずに亡くなるという実態は回避すべきではないかと考える。
- (ウ) もっと他の計画やサービスと連動できるように検討していただく必要があると思う。65 歳になり障害福祉サービスから介護保険に移行する方もいれば、障害福祉サービスだけを利用している方も多くいるので、その点もプランに反映したらよいのではないかと。
- (エ) 薬局の居宅療養管理指導の算定項目の中に、主治医やケアマネに対する報告書の提出というのがある。ほとんどの医療機関は、薬局からの報告書を受け付ける窓口や仕

組みがなく、薬局は算定要件を満たしようがないという現状がある。

- (カ) 認知症は重症になって、世間が認知症に対して悪いイメージを持つ前に、症状が軽い段階で、お互いが気をつけていこうと話し合いができる仕組みができればよいと思う。物忘れが始まったときに、健康的な物忘れなのか、病的なものなのかを早い段階で察知させるような仕組みを作ればよいのではないか。
- (キ) 24 時間対応できるサービスが必要になると思うが、広報や啓発の問題だけを解決するだけで事業者の参入が進むか、どのようにすれば参入が進むかということを再調査していただきたい。
- (ク) 高齢者を支える社会資源の中で、訪問マッサージも社会資源のひとつとして周知して欲しい。 等

(2) アンケートでの意見

ア 市民フォーラムについての意見・感想 (42 件)

- (ア) 今回初めて参加したが、一般市民の方でも多くの方が関心を持って参加されているのだと感じた。介護保険に携わる仕事をしている私にとってとても分かりやすく、ためになる会であった。
- (イ) 町会での介護予防教育の維持、継続を今後とも続けたいと思った。
- (ウ) 夢のような骨子案だが具体的取り組みが具体的ではないので実現するのか不安に思う。
- (エ) 小学校単位で地域包括支援センターが設立できればと思う。
- (オ) 介護保険については関係ある文章を読むだけじゃ分からないので、このようなフォーラムを開き、できるだけ多くの市民に広めていくことが大切だと思った。
- (カ) 総合事業の方向性についてもう少し詳しい話が聞きたかった。 等

イ 地域で高齢者の暮らしを支えるために求められるものについての意見 (58 件)

- (ア) 高齢者のみの事を考えてもそれを支える人（家族、地域、医療、介護は支える対象の高齢者よりも若い世代だから）も共倒れにならないようにしなければいけないと思う。支える人達へのサポートもしっかりするべき。
- (イ) 地域の支えあい
- (ウ) 高齢者の方が気軽に歩いていける集いの場が近くにあることが大切。気兼ねせずに行ける場、いつでも行ける場をぜひお願いしたい。
- (エ) 介護保険が必要な方がいるときに相談する場所をつくってほしい。
- (オ) きめ細かなサービスを市民に理解してもらうことが大切。また、高齢者の生きがい作りのプランも大切である。
- (カ) 地域の高齢者がサービスを地域外で受けるケースが多いため、徘徊で不明になっ

た人の情報が遅く、対応が遅れることが今までにも2回あった。地域の高齢者は地域で見守る体制が必要

- (4) 持ち家の高齢者は近所との付き合いがあるので情報は分かるが、アパートの入居者はなかなか情報が得られないので、何か方策が必要ではないかと思う。
- (5) 市民一人ひとりの意識改革。60~70代の元気な高齢者が地域の担い手に喜んでもなること、自分のことは自分でするようにという意識をもつこと。
- (6) 地域で暮らしていける高齢者自身が自分に何ができるか、地域に貢献できるか、支援を受けながらもできることを見つけていき、お互いが支え合える地域づくりが必要
- (7) 要介護が必要になる前に自分の考えや生き方を決めておく事が必要かと思う。
- (8) 身近に年代を超えた地域交流が日常的に行える場。介護職員の離職問題
- (9) 一人暮らしの方は民生委員の方がいるが、そうでない人はどうすれば良いか。
- (10) 認知症カフェや地域サロン等、地域の方々が集う場所が多くできたら良いと思う。
- (11) いつでも集える居場所づくり、そしてそこでの助け合い、相談できる体制、まちづくり。 等

ウ これからの介護保険に関する意見・要望 (36件)

- (12) 本当にサービスが必要な方々に私達民間の企業が何をする事が求められているのか、具体的に考えられる良い機会となった。
- (13) 支援センターが多忙すぎる。解決方法はないのか。
- (14) 町会単位に介護保険についての話をしてほしい。高齢者が年々増加しつつある町会が多く、言葉だけ一人歩きして実際はどのようなものが分からない人が多い。きめ細かな対応をお願いしたい。
- (15) 総合事業を地域に根ざしたきちんとしたものにしてほしい。
- (16) 介護保険料を支払っているのだからという意見をよく耳にするが、利用しなくてもよいよう努力している方にもメリットがあるシステムも必要ではないかと思う。
- (17) 介護職員の質の向上と待遇改善
- (18) 今後高齢化が進むことで、体は元気だが認知機能が低下する人の問題が大きくなる。徘徊に対応できる仕組みづくりが必要。地域住民の顔が見える関係作りが必要になると思う。
- (19) 今後の介護保険の改正について総合事業について円滑に制度移行を行っていくなっているが、市民等への周知案内は次年度はじめにあるのか。市民としては不安な思いもあり市で決まったことについてどのように制度移行していくのか教えてほしい。 等